

災害にそなえて…

災害はある日突然やってきます。普段から災害時のそなえや心がまえをしておけば、いざというときにもあわてずに済みます。

いざというときはあわてずに！



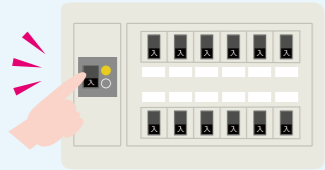
アツ地震！グラツときたときは

スイッチを切って、プラグを抜いて

地震のときは火事に注意。アイロン、ドライヤー、ストーブなどの熱を出す機器を使っているときは、プラグをコンセントから抜きましょう。

避難するときは、漏電遮断器を切って

地震で停電になっても、電気事業者の設備に問題がなければ、再び電氣は送られてきます。自宅を離れ避難するときは、電氣の消し忘れなどによる事故（通電火災）を防ぐために、分電盤の漏電遮断器を切ってください。地震がおさまったら電氣機器の安全をチェックしましょう。ガス漏れのおそれがあるときには電氣を使用しないようにしましょう。



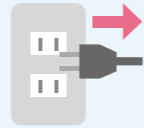
日頃のそなえ

- 日頃から、懐中電灯（手動発電式のものもあります）や携帯ラジオ、防災リュックなどを用意しておきましょう。また、電気事業者や電気工事店の連絡先を確認しておきましょう。
- 携帯電話・スマートフォン用自動発電機を用意しておく、いざというときに役立ちます。
- 停電によるパソコンのデータ消失などを防ぐには、UPS（無停電電源装置）などの設置をおすすめします。

ピカッ、ゴロゴロ 雷だ！

プラグを抜いて！

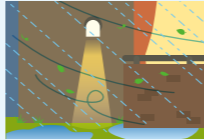
落雷による影響で、電氣機器が壊れたり、火災が発生することがあります。近くで大きな雷が鳴ったら、プラグはコンセントから抜き、電話線もモジュラージャックから抜くようにしましょう。なお、雷に対応した分電盤もあります。避雷器が内蔵されている分電盤は、電源線、アース線から侵入する雷サージを防ぎ、家庭の電氣機器を守ってくれます。



台風・暴風雨にそなえて

屋外照明器具などをチェック

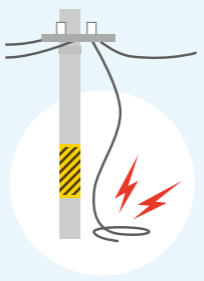
屋外に設置されている照明器具やアンテナなどが暴風雨に耐えられるのか確かめましょう。また、台風による浸水などで屋内配線や電氣機器が水に浸かってしまった場合は、使う前に必ず電気工事店、または電気事業者などにご相談ください。



切れた電線には絶対にさわらないで！

電気事業者へすぐご連絡を

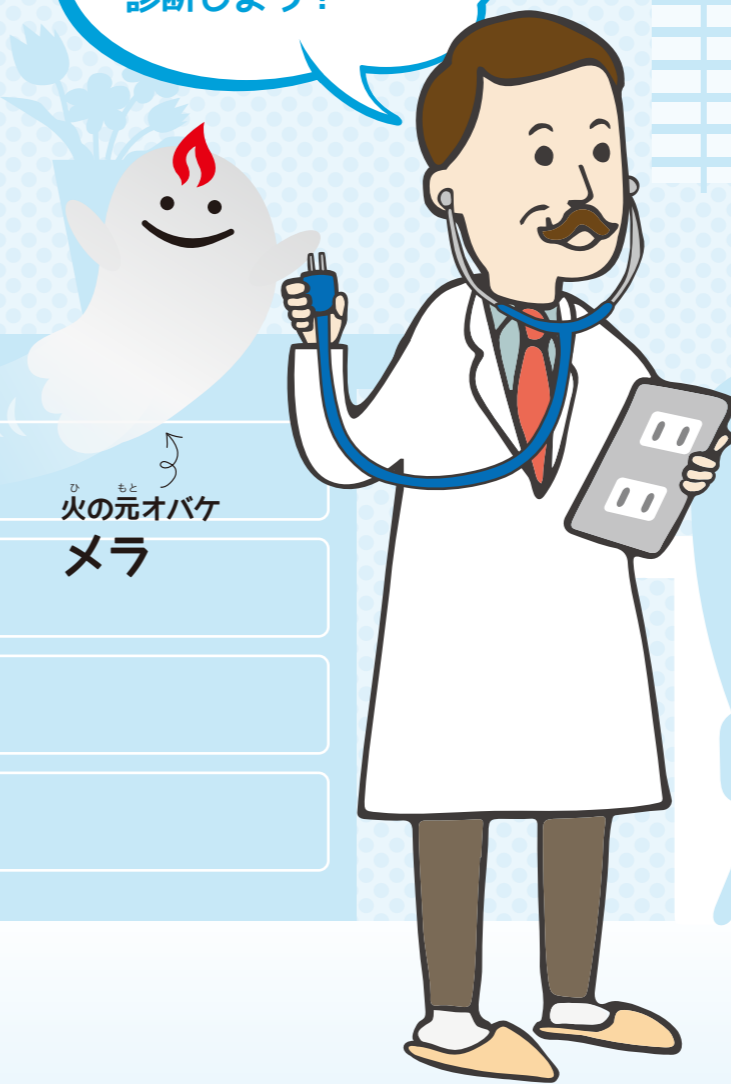
たれ下がった電線にさわると感電するおそれがあります。切れた電線には絶対にさわらないでください。また、樹木や看板、アンテナなどに電線がふれている場合も危険です。見つけたときには近づかないで、すぐ、お近くの電気事業者にご連絡ください。



電氣を上手に安全に使っていますか？ 電氣の安全診断カルテ

快適ライフのための安全ガイド

電氣を上手に安全に使っているか、一緒に診断しよう！



教えて先生！

火の元オバケ
メラ

感電オバケ
ビリー

カルテはこちらから

分電盤は電気の見張り番！

私たちの快適な暮らしを支えてくれる電気。家庭に送られてきた電気は、分電盤をとって各部屋に届けられます。分電盤には、漏電遮断器(漏電ブレーカー)、配線用遮断器(安全ブレーカー)が取り付けられてあり、電気の安全をしっかりガードしています。万一の場合にそなえて分電盤がどこにあるのか、確かめておきましょう。

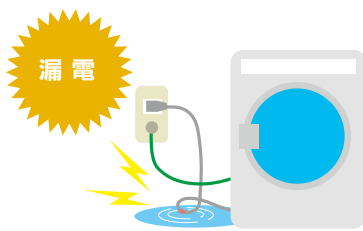
分電盤は
電気安全の
カギ！



ろうでんしゃだんき

漏電遮断器 漏電ブレーカー

感電や火災の原因となる漏電をすばやくキャッチし、自動的に電気を止め、電気事故を未然に防ぎます。漏電遮断器には、正しく作動するかどうかチェックできるテストボタン(灰色または赤色)がついています。長期間使用していると、経年劣化などにより漏電遮断器が正しく作動しなくなることもありますので、ご家庭で定期的に確認するようにしましょう。テストボタンを押しても作動しない場合は、お近くの電気工事店へご相談ください。なお、取り替えの目安は15年程度です。また単相3線式の配線には、「**中性線欠相保護機能付き漏電遮断器**」をおすすめします。



たびたび漏電遮断器が作動する場合は、電気工事店へご相談ください。

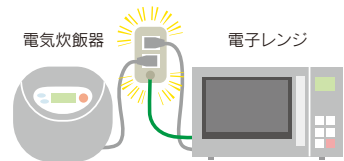
「中性線欠相保護機能付き漏電遮断器」とは？

多くのご家庭で使用されている単相3線式配線では、中性線(真ん中の白い電線)の接触が悪くなると電圧が不安定になり、通電中の電気機器が故障することがあります。これはごく稀に漏電遮断器の端子部分のゆるみなどが原因で起こるもので、中性線欠相保護機能付き漏電遮断器は、このようなときに、いち早く電気を遮断することができます。

はいせんようしゃだんき

配線用遮断器 安全ブレーカー

電気の行き先(回路)ごとに、**配線用遮断器**がついており、配線が過熱するのを防ぐため、決められた容量を超える電気が流れると自動的に電気を止めます。たとえば、容量が20A(アンペア)の場合、コードがショート(短絡)したり、電気機器の使いすぎで20A(100V機器で2,000W)を超える電気が流れると、その回路の遮断器が作動して電気を止めます。エアコン、電子レンジ、衣類乾燥機などの**電気を多く使う機器は、専用回路**にすることをおすすめします。



電気炊飯器10A(1,000W)と電子レンジ12A(1,200W)を同時に使用すると合計で22A(2,200W)となり、配線用遮断器の容量20A(2,000W)を超えるので配線用遮断器が作動して、電気を止めます。

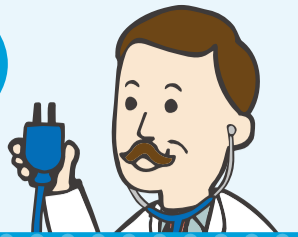
コード短絡保護機能を有する配線用遮断器

電気機器を使用していなくても、差込みプラグがコンセントに差し込まれて電圧がかかっているだけで、ショートが発生するおそれが全くないとは限りません。コード短絡保護機能を有する配線用遮断器は、初期段階のショートを検知して瞬時に電気を止めることができるので、大きな効果があります。



電気の仕事は電気工事店へ

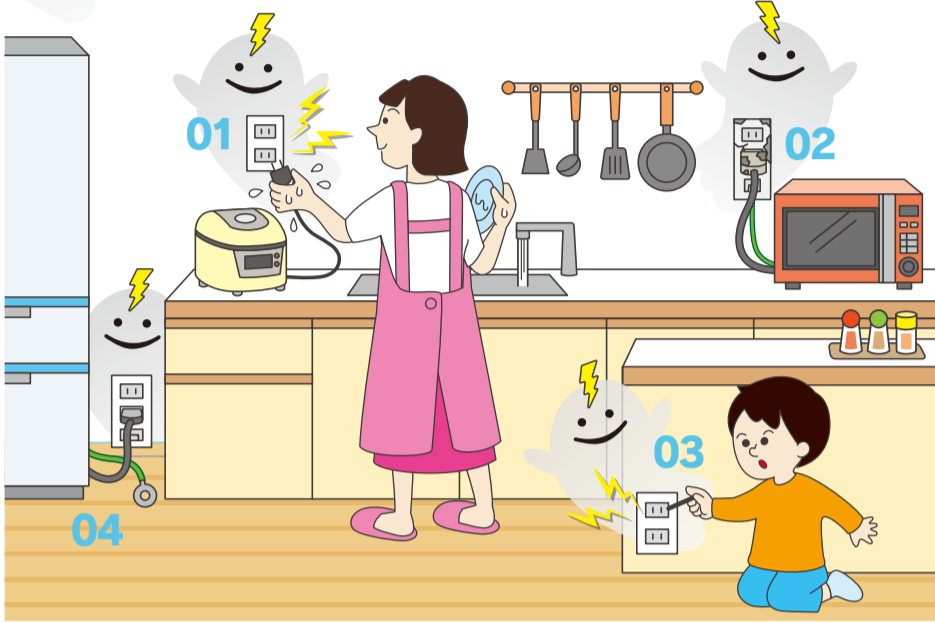
電気の屋内配線工事は、「電気工事士」の資格をもった人が電気の技術基準を守って工事をするように法律で定められています。電気の仕事が必要なときは、電気工事店に依頼してください。



CHECK LIST

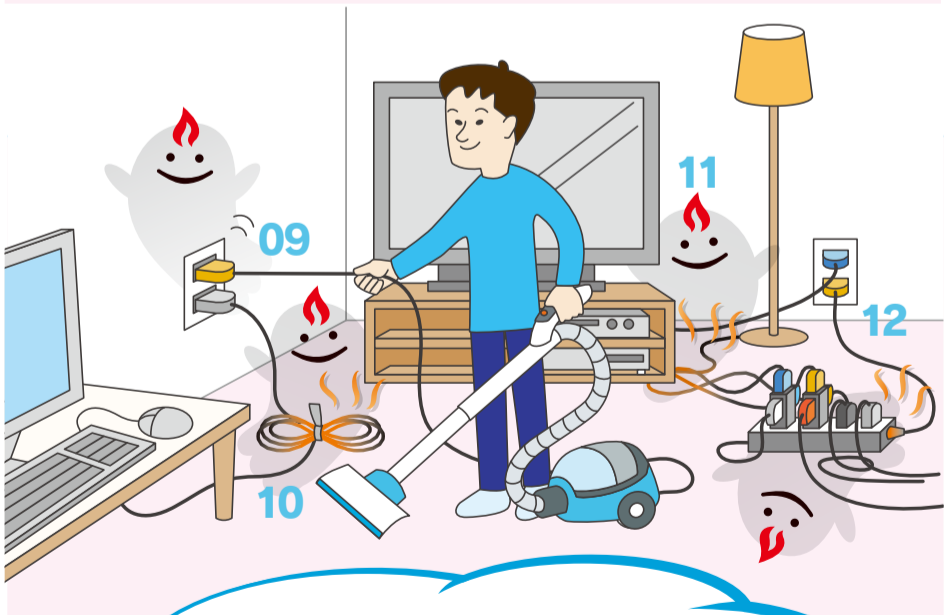
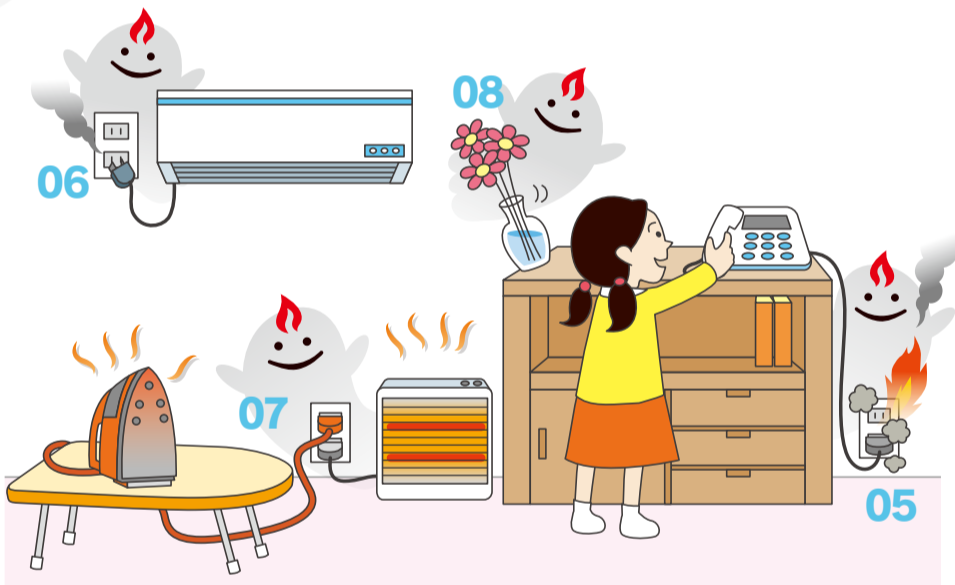
ビリビリ〜
電気の使い方を間違えると、感電してやけどやケガをしまうおそれがあります。

感電リスク診断



メラメラ〜
電気の使い方を間違えると、電気の発熱やショート、トラッキング現象、漏電などにより火災が発生するおそれがあります。

火災リスク診断



チェックが付きなかった項目はよく読んで、電気の使い方を見直してみよう。先生が電気の処方せんを出してくれたよ!

check!

- 01 ぬれた手ではプラグをさわっていない**
ぬれた手でプラグやスイッチをさわると感電するおそれがあります。さわる前によく手をふいて水気をとってからあつかいましょう。
- 02 傷んだプラグやコンセントを使っていない**
感電やショートの原因となるので、傷んだプラグやコンセントは取り替えましょう。
- 03 コンセントに異物を入れていない**
コンセントにプラグ以外の物を差し込んだりすると、感電するおそれがあります。小さなお子様がいるご家庭では異物が入らないつくりになっている扉付きコンセントをおすすめします。また、冷蔵庫やパソコンなどには、プラグを差し込んで、ひねると抜けないつくりの抜け止めコンセントが便利です。
- 04 アース線を取り付けている**
洗濯機や衣類乾燥機、エアコン、電子レンジ、冷蔵庫などのアース線を専用の接地端子に取り付けましょう。アース線は漏電した電気を大地に逃がし、漏電遮断器と一緒に使用すると感電の防止に効果的です。
- 05 プラグを定期的に掃除している**
長期間プラグを差し込んだままにしておくと**トラッキング現象**(電気の処方せんを参照)が起こり、火災の原因になることがあります。プラグはときどき乾いた布などで掃除しましょう。
- 06 プラグはしっかりコンセントに差し込んでいる**
プラグがゆるんでいると、過熱するおそれがあり危険です。プラグはしっかりと差し込みましょう。
- 07 熱を発生する電気機器は、使ったあと必ずプラグを抜いている**
アイロンやドライヤー、電気ストーブなどはスイッチを切り忘れると火災の原因になるおそれがあるので、使ったあと必ずプラグを抜く習慣をつけましょう。
- 08 電気機器のそばに花瓶や水槽などを置いていない**
倒れて電気機器に水がかかると、漏電や火災などの原因となる場合があります。万が一、水がかかった場合は、使う前に電気工事店や販売店などにご相談ください。
- 09 コードを引っ張っていない**
コードが傷んで断線や過熱の原因になるので、必ずプラグ部分をもって抜きましょう。
- 10 コードを束ねたり、巻いたりしていない**
コードを巻いたり束ねたりすると過熱するおそれがあるのでやめましょう。
- 11 コードが家具などの下敷きになっていない**
コードが傷んで過熱し、火災などの原因となる場合がありますので、気をつけましょう。また、タンスや冷蔵庫などでプラグを押しつけないようにしましょう。
- 12 タコ足配線はしていない**
コンセントやテーブルタップの容量を超えて、一度にたくさんの電気機器を使うと過熱して危険です。テーブルタップの容量を守りましょう。

電気の処方せん

安心、便利な器具のご紹介

電気火災に注意!

遮断器付テーブルタップ

マグネットコンセント

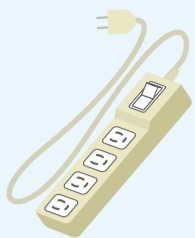
こまめな点検と適切な配線

電気の処方せん

安心、便利な器具のご紹介

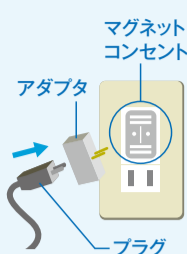
遮断器付テーブルタップ

決められた電気の容量を超えると、内蔵されている安全ブレーカーが作動し、電気を止めます。電源を差込口ごとに入り切りできる節電スイッチがついているものもあります。



マグネットコンセント

小さなお子さまやお年寄りのいるご家庭では、マグネットコンセントをおすすめします。コードに足がひっかかっても、プラグが簡単に外れるので安心です。一般のプラグをアダプタに差し込むことにより使用でき、上下左右にコードをひっぱるとコードが外れやすく、まっすぐにひっぱるとコードが抜けにくいしくみになっています。



便利な200ボルトの電気機器

200ボルトの機器には、高効率のエアコン、IHクッキングヒーター、エコキュートなどがあります。200ボルト機器を使うには、単相3線式の配線となります。また、その機器専用の屋内配線およびコンセントが必要となります。



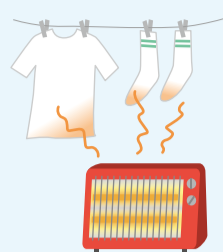
停電のときでも安心な保安灯

停電による暗闇は危険です。保安灯をコンセントに差し込んでおくと、停電のときは自動的に点灯します。なお、ふだんは常夜灯として利用できるものや、コンセントからはずすと懐中電灯に使えるものもあります。



電気火災に注意!

衣類や布団などの可燃物が電気ストーブの近くにあると、ちょっとしたはずみで電気ストーブに接触し出火するおそれがあります。燃えやすいものの近くで電気ストーブを使用するのはやめましょう。照明器具やランプは、点灯時に高熱を発生しています。布や紙などの可燃物で覆わないようにしましょう。



長期間使用した電気機器にご注意

古い電気機器を使い続けていると、気づかないうちに部品等が劣化して事故につながる恐れがあります。「いつもと違う」「何か変だな」と感じたら、すぐに使用を中止してメーカーや販売店などに相談しましょう。



アウトドアでの注意点

電線の近くでたこあげやラジコン飛行機で遊ばないようにしましょう。



※万一、電線などにひっかかった場合は必ずお近くの電気事業者に連絡をお願いします。

釣りざおが電線に近づくと感じる危険があるので注意しましょう。



長期使用製品安全点検制度

長期使用製品による重大事故を防ぐために、平成21年4月1日以降に製造された経年劣化による事故数の多い電気機器は、標準使用期間と経年劣化について注意喚起の表示がされています。対象製品には、2槽式洗濯機、全自動洗濯機、エアコン、ブラウン管テレビ、扇風機、換気扇があります。

こまめに点検しましょう!

「トラッキング現象」に気をつけましょう。

火災の原因のひとつとして問題になっている、「トラッキング現象」とは、長期間プラグを差し込んだままにしておいたために、プラグとコンセントの間にたまったホコリが湿気を帯び、プラグの刃の間にわずかな放電が繰り返し起きることが発端となって、プラグが突然発火する現象です。火災の原因になることがあるので、プラグをととき抜いて乾いた布などで掃除しましょう。また、「トラッキング防止カバー」の取り付けも有効です。

